



亀中だより

No.34 令和7年1月31日 文責 岡田



忘れてはならない能登半島の今…

令和6年元日に発生した「能登半島地震」、そして9月、その被災地を今度は豪雨が襲いました。時間の経過とともにテレビなどに取り上げられることも少なくなり、被災地から離れている人にとっては過去のことのよう思いがちです。しかし現実には決してそうではなくて、避難生活を続けている人がたくさんいます。ある地域では仮設住宅の建設も豪雨の影響で遅れ、12月末にようやく完成したところだそうです。

仮設住宅ができたとしても、多くの被災者が自分の家には帰宅できず、中にはやむを得ず移住せざるを得ない現状もあります。自分の生まれ育った土地を離れなければならないとはどんな感情なのか、察するに余りあります。能登半島地震の被災地は、今なお深刻な危機に直面しているのです。ただ、その中で被災地の方々が懸命に生活を立て直そうとされています。今、私たちができることは何なのでしょう。

被災地のボランティア活動などはなかなかできるものではありません。でも日常から意識していれば、募金活動をはじめ、どうせ買い物をするなら、能登の特産品を購入するなど、わずかながらも現地の生産者や産業を支援することになります。大切なことは心に留めておくことです。被災地を応援する心を持った人であり続けられますよう、期待しています。

あらためまして、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、今なお、災害対策に当たられている皆様方に深く敬意を表するとともに、被災地域の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

高校入試が始まりました！



三年生は3学期が始まりすぐさま行われた実力テストに加え、1月20日、21日には学年末テストも行いました。そしていよいよ高校入試も始まっています。1月中旬より私立高校の受験が行われており、2月3日からは県立高校前期選抜も開始されます。受験（験）には必ず結果があります。前期選抜全日制課程の志願者数は定員の2倍以上となることもめずらしくありません。いかなる結果になろうとも悔いを残すことのないよう、今の努力を大切にしてください。



入試に際しては、テスト勉強が基本となるものの、前期選抜等では面接や作文も大切になってきます。面接や作文は学校でも練習に取り組んでいますが、基本は、「なぜその学校を選んだのか」「そこで自分はどうしたいのか」がしっかりと話せること、書けることが必要です。しかもそれはその時だけのものであってはいけません。面接、作文という機会を通して、自分の目的、目標をはっきりとさせ、自分がどうなりたいたいのかをクリアにしておきましょう。また面接での立ち居振る舞いは、日常と同じものであってほしいものです。その場だけを取り繕うものではなく、日ごろのあなたの姿が、その場にふさわしいものとなるよう努めてください。入試には体力も必要です。健康には十分注意して、一日一日を大切にいきましょう！

授業参観ありがとうございました！

1月20日の授業参観、いのちの日講演会・教育懇談会へのご参加、ありがとうございました。令和の時代とともに始まった道徳の教科化ですが、ご覧いただいた授業はいかがだったでしょうか。道徳の授業内で生徒が自由に自分の考えを表したり、他の意見を聞くことで考えを広めたり、深めたりといった活動をご覧いただけたでしょうか。生徒のみなさんにとっても、道徳の授業で先生の期待するこたえを考える必要はありません。自由に考え、共に悩む中で見えてくることを大切にしたいものです。今後の道徳の授業も楽しんでいってください。